

知っておいて
欲しいこと

若い女性に多いがん…

子宮頸がん



みなさんは「子宮頸がん」という病気を知っていますか？
近年、患者数・死亡者数ともに漸進傾向にあるうえ、この10年で
20～30代での発症が倍増し、若い世代のがんと言えます。



【Q1 子宮頸がんの原因と症状は？】

HPV（ヒトパピローマウイルス）が原因とされています。

このウイルスはごくありふれたウイルスで、性交渉によって男女問わず多くの人が感染します。感染してもほとんどの人は自然に排除されますが、一部がんになってしまう人がいます。

初期には自覚症状がほとんどありません。

そのため、検診を受けずにいると知らない間にがんが進行し、子宮全体の摘出手術など将来の妊娠や出産に影響を及ぼします。それ故、この病気は「マザーキラー」とも言われているのです。

子宮頸がんの予防に対して私たちが出来ること

【一次予防】 HPV ワクチンの接種

ワクチンを接種することで、HPVに感染することを防ぎ、将来の子宮頸がんを予防できるとされています。



【二次予防】 子宮頸がん検診（2年に1度）

子宮頸がんを早期発見するため、20歳★になったら検診を受けましょう。



【Q2 HPV ワクチンにはどんなリスクがありますか？】

接種した部位の痛みや腫れ、赤みなどの症状が起こることがあります。

稀ではありますが、アレルギーによる呼吸困難や蕁麻疹、広範囲の痛み、手足の動かしにくさ、不随意運動（動かそうと思っていない体の一部が動いてしまう）など「多様な症状」が報告されています。

【Q3 HPV ワクチンは安全なのですか？】

日本では2010年度からHPVワクチン接種の公費助成が始まり、2013年4月に定期接種化しました。しかし、上述の「多様な症状」の報告を受け、わずか2か月で積極的な接種勧奨は差し控えられ、現在も継続されています。この「多様な症状」は、全国的な疫学調査を重ねた結果、ワクチンとの因果関係は証明されていません。WHO（世界保健機関）は世界中の最新データを継続的に解析し、ワクチンの安全性を示しています。日本産婦人科学会も積極的な接種勧奨の再開を繰り返し求めているところです。

どんなワクチンであっても有効性（ベネフィット）と副反応（リスク）の両方があります。7月21日に9価ワクチンが承認されましたが、2000年度以降に産まれた「接種停止世代」は、HPVワクチンや子宮頸がんに関する情報自体が不足していることが考えられます。自分で自分の体を守るため、女性特有の病気について知り、理解を深めましょう。